

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792000073		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみ我孫子(あしたばユニット)		
所在地	〒558-0023 大阪市住吉区山之内1丁目20番4号		
自己評価作成日	平成22年12月2日	評価結果市町村受理日	平成23年2月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

南向きの暖かい日差しの中で、18名の利用者様と21名の職員が共に笑い、時々喧嘩もする楽しい家庭。その家にはご近所様も暖かい声をかけて下さり、地域の中で安心して暮らせることをホーム理念に掲げ実行しています。ホーム理念の「待つへア」は利用者様に待つことなく、一人ひとりのペースに合わせ急ぐことなく、急がせることなく静かに待つ差上げることが自立支援に繋がる事だと職員一同共有し実行しています。日々の暮らしは生活用品、食料品すべて現地調達しています。毎日利用者様と買い物に行き、一緒に調理し賑やかに食卓を囲んでいます。利用者様も職員も外出が大好き、楽しいことが大好きホーム内、外問わず毎日イベントのような生活です。11月6日も地域の祭りに出店、全員で出掛け(ホームは留守です)秋晴れの日を楽しみました。年に2回は日帰りですが温泉旅行も恒例になっています。本年度から職員の質の向上の為、月1~2回のホーム内勉強会を実施しております。まだまだ課題は山積ですが職員一人ひとりが成長し、サービスに還元していけたらと思っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2792000073&amp;SCD=320">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2792000073&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年12月24日		

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【お客様が地域の中で明るく穏やかに暮らす家】 【お客様との気持ちの共感】 【お客様を待つケア】 会社理念、ホーム理念を唱和、共有してお客様が地域の中でホームを我が家として穏やかに暮らせるようスタッフ全員周知実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日買い物、散歩などと交流の場を持ち、玄関は施錠せず気軽に地域の人が訪問して下さる環境づくり、また町会の一員として地域行事にも参加、協力をしている。またボランティア受け入れも積極的に行なっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域社協、ボランティア協会などの催しを通して認知症への理解相談に応じるような機会を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回の運営推進会議においてサービスの報告今後の計画を報告、話し合い、各構成委員の方たちからの助言を受け、ホームイベントなどの参考にしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に訪問して事業所の実情を報告し指導を受けている。また地域福祉会に加入、福祉祭りに出店、参加などを行なっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を定期的に行なっている。 全員の理解を得て、身体拘束をしないケアを実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止には徹底して学び、話し合う場を設けている。		

ニチイのほほえみ我孫子(あしたば)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を実際に活用している方もおり、身近で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約などの書類に関してはゆっくりと読みあわせを行い、不安点、疑問点を話しやすい環境作りをして十分な説明を行って理解、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社が実施するアンケートで要望、意見を聞き取る機会を設けている。また家族が気軽に要望を話せるような関係を構築している。また、玄関にご意見箱を設置し、いつでも要望を表して頂ける機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回以上のホーム会議、また日々の申し送り時に意見、提案を発表し話し合う機会を設けている。ユニットを孤立させる事のない様、職員の定期的な移動、日々のユニット合同のレクレーションなどを通して職員全員が、入居者様全員の把握が出来るようにすることにより運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々職員の努力、実績、勤務状況など把握できるよう、個人面談を行い、やりがい、向上心をもって働けるよう職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、行政の行なう研修などに積極的に参加できる環境をつくり機会を設けている。ホーム内に置いても伝達研修、勉強会を定期的に行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護サービス連絡会や社内ホーム間の交流を通じた勉強会、催しなどで質の向上を図っている。		

ニチイのほほえみ我孫子(あしたば)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス依頼時、本人と何度も話す機会を持ち信頼を深め、要望を伺い入居に関しての不安を解消できるよう努めている。また入居時環境の変化、寂しさからの不安、要望に応え早期に安心して暮らせる環境を確保できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の悩み、不安、要望に安心して頂けるよう配慮して、家族様の求めていることを聞き、受け止めて信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況、家族の希望などサービス開始時必要としているものをサービスとして提供し、リハビリ、往診などの対応にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様と家族としての環境をつくり、共に生活をしている家族として、一緒に考え一緒に行動し気持ちの共感をしていくよう努めている。職員の出、退職時には「行ってきます」「ただいま」を挨拶とし淋しさを感じさせないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様近況を、スタッフの手書きによる手紙にてお知らせしている。本人様の生活、思いを家族様と共有し共に支えていることを実感して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人など馴染みの人たちとの交流を持って頂けるよう面会、外出の機会を多くもてるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様個々の性格、行動を把握し一つの家族として仲良く、楽しく生活していけるよう支援している。		

ニチイのほほえみ我孫子(あしたば)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族の一員として関係を断ち切らないよう気軽にホームに来て頂けるような関係を持っている。また相談にも随時応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様、一人ひとりの意向を重視して、安心して日常生活が送れるよう本人本位に検討している。言葉で話せない入居者様に対しては、家族様に聞いたり、表情や行動で把握できるよう努めている。情報をスタッフ全員共有できるよう話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の一部を利用している。ご本人様の生活歴を把握しできる限り、馴染みの暮らしを継続できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしく自由に暮らせるようホームの一日を強制せずその能力に応じた自立支援を行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様本位を基準とし、家族様の意向を取り入れ入居者様がその能力に応じた役割を持った暮らしができるよう職員全員が意見を出し合い、入居者様本位のケアプランを作成、実行している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のくらしの記録、バイタルチェック、などの記録を職員、往診医、その他関わりのある各分野の関係者、スタッフと共有してケアの実践、介護計画の見直しの資料としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、食事など季節、その日の天候などその時々に応じたサービスが出来ている。また家族様の急な面会時でも宿泊食事など柔軟に対応できるような取り組みが出来ている。		

ニチイのほほえみ我孫子(あしたば)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会、サービス事業所連絡会などへの加入を通して地域資源の利用をしている。地域催しからの参加招待、参加協力など利用者様が個々楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様全員が往診をはじめ、歯科医、リハビリなどの医療サービスが受けられる様、入居時ホーム協力医をかかりつけ医として頂くよう説明し同意頂いている。 1月1日より医療連携体制サービスが行なえるよう家族会議、同意書の取り交わしなど準備を行なっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1月1日より医療連携体制を開始する。現在は往診医と24時間体制をとり健康管理を行なっている。必要に応じ往診医指示による訪問看護利用して、個々の利用者様が安心して日々の暮らしができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の本人への面会、家族様からの相談対応、入院中の容態を往診医に報告し、各関係者と家族様と話し合い早期退院が行なえるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、終末期のホームでのサービスを説明、理解して頂いている。医療処置、本人様の状態、家族様の希望を聞き取りも出きるむね伝えている。1月からは重度化における指針も家族様と話し合い交わす予定です。スタッフ全員ホームの方針を理解し共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回～3回の消防署に依頼しての救急救命講習をスタッフ全員受講している。事故対策研修はホーム内、外の研修参加で緊急時の対応を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練、避難訓練を行なって避難経路、避難方法の確認、共有を行なっている。地域の非難訓練に参加、避難場所、協力体制を確認、全員共有している。 ホーム内には災害時の食料、応急処置物品、着替えなどを用意している。		

ニチイのほほえみ我孫子(あしたば)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームは家庭であるというホーム理念のもと、家族であっても尊厳を持って接するよう努めている。また個々のプライバシーを守るため記録時は必ずスタッフルームにて行い記録物は必要に応じ他の目につかないよう気をつけている。接遇に関しては不適切な言葉使いはその都度お互い注意しあい、勉強会は定期的に行なっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事、飲み物、その日の服装と本人の好み、希望を出来る限り反映している。入居者様が何をしたいのか求めているのかを常に確認し、ケアをするよう配慮している。入居者様の思いをゆっくりと聞き意思表示して頂けるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせ、スタッフがホーム理念の【待つケア】を実践している、日々の日課を作らず、その日の入居者様の希望、状態によってケアを行うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装の乱れや、汚れ染みに注意し、清潔感あふれる服装をして頂いている。近所の店に好みの服や化粧品を選び購入したり、また外出時には、その場に応じた服装や、お化粧品などをすすめ、おしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は毎日買物に行き食材、メニューを入居者様と一緒に決めている。ホームの畑で取れた野菜を利用して献立に組み入れている。入居者様の残存機能に合わせて、一緒に食事の準備、片付けを行っている。職員も一緒に食卓を囲み会話をしながら楽しく食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取に関しては1日1000cc以上を目標にしている。毎日の食事量や1ヵ月に1回の体重測定にて、栄養管理ができていないかチェックしている。食事量が少ない入居者様に関しては、医師と連携をとり高栄養ドリンクなど栄養補助、健康維持に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ、誘導にて口腔ケアを行っている。介助による口腔ケアを拒否される方に関しては、週に1回の訪問受診にて清潔保持を行っている。		

ニチイのほほえみ我孫子(あしたば)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを記録し、一人ひとりの排泄パターンを日々検討して失禁を減らし排泄の自立を支援している。排泄感覚のない入居者様にもトイレに誘導し便器に座って頂くことにより排泄をして頂ける様になるのではと支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い、バランスの取れた食事を意識して提供している。便秘傾向の入居者様については、医師との連携のうえ、食事内容や運動量などの原因を追求し、対策を考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々のペースに合わせてゆっくりと入浴して頂いている。午前中から20時までの希望に合わせ、入浴できるように支援している。基本毎日入浴を支援しているが、本人の意志を尊重し無理強いはいしないようにしているが、拒否の日が続くと3日を限度として、誘導方法を工夫して入浴、介助、見守りを行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠剤を使用せず、日中の活動を増やしたり、入浴時間を変えたり工夫している。無理に入眠を強要せず、本人のペースにあった睡眠ができるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬には職員は副作用、用法等を理解し、また薬剤師による分包、配置により安全に服薬支援を行っている。症状の変化時すぐに医師、薬剤師に相談できるよう連絡体制を取っている。また2ヶ月に1回薬剤師による勉強会を行なって薬剤への理解を学んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や料理、裁縫などを経験してきた入居者様に教えてもらいながら共に行っている。また洗濯たたみや食器洗いなど長年培ってきた生活習慣は、本人の役割として出番を作っている。毎日のホームでのティータイムを近隣の喫茶店で楽しむなどの気分転換を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほぼ毎日買い物や散歩に出かけている。近所の喫茶店や公園・地域の催しなどに出かけたりと、地域交流も兼ねて外出を楽しんで頂いている。暖かい季節にはホーム周辺を入居者様と一緒に清掃を行っている。年2回全員での温泉旅行も恒例になって家族様も参加され喜ばれている。外食も楽しみの一つで特に回転寿司が一番人気で普段食欲のない方も喜んで食されている。		

ニチイのほほえみ我孫子(あしたば)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に本人様の財布とお小遣いをお預かりしているので、欲しい物や必要な物は一緒に買い物に出かけ買って頂いている。なお管理はホームで行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人・家族の希望に応じて電話・手紙の取次ぎなどの支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には生け花、リビングにも生け花や観葉植物などを置き、水槽には金魚・ベランダには住みついた猫の親子など施設ではなく家庭の延長を意識し落ち着いた和みの空間を提供するように配慮している。テーブルの位置など食事(鍋料理など)にあわせ配置移動させたりマンネリ化しないよう配慮している。居室にも手作りのカレンダーを毎月貼り季節、月日を感じて頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先にはベンチを設置、暖かい日には気の合う人同士日向ぼっこしたり、またテラスでお茶やおしゃべりを楽しんでいる。リビングの和室や陽だまりのスペースで思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に本人様の長年使用していた家具、思い出の品など持参して頂いている。ベッドが嫌いな方には畳を敷き布団の上げ下ろしを職員と一緒にいき、またご夫婦で入居の方には寝室と居間に分けて利用するなど、その方に合った過ごし方を工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には手すりが豊富に取り付けられている。 長い廊下と手すりを利用しての歩行訓練では、鉄道を使って頑張りが見えるようにし、一人ひとりの能力に応じた自立を目指している。		